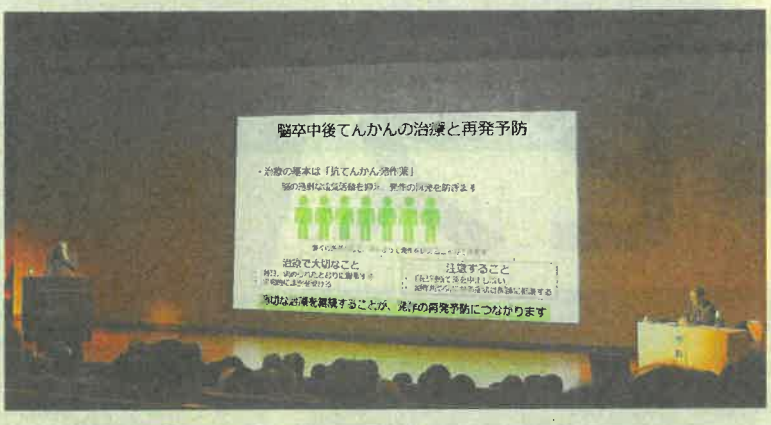
徳島新聞　　令和8年11月2日（月）

脳・心臓の病 理解深める

徳大病院が県民公開講座



脳卒中や心疾患、認知症の特徴や予防法について解説する専門家ら＝徳島市の徳島大大塚講堂

徳島大学病院の県民公開講座「知らないと損する、脳と心臓のハナシ」（同病院脳卒中・心臓病等総合支援センター主催）が1日、徳島市の同大大塚講堂で開かれた。オンライン参加を含め、約620人が病気の予防への理解を深めた。

同大大学院医歯薬学研究部臨床神経科学分野の和泉唯信教授が「脳卒中と認知症の深い関係～予防と認知症診療の今」と題して特別講演した。和泉教授は生活習慣によって脳梗塞や脳出血を起こした結果、認知症になる可能性があると指摘。「認知症予防のやり方は人によって異なる。自分の好きな運動や音楽などに意欲的に取り組んでほしい」と語った。

卒後臨床研修センターの門田宗之副センター長は、疲れやすさと心臓病の関係について解説。「年齢による疲労感と心臓病による症状は似ている」と説明した上で、病気の兆候を知り、適切な治療が必要だとして「年齢のせいだと考えず、心臓病の可能性も視野に入れて」と呼びかけた。

また、脳神経外科の藤原敏孝教育主任医長は、脳卒中の後遺症であるひきつけの仕組みや、発作が起きた際の対応方法を紹介。食の予防医学をテーマに話した栄養部の鈴木佳子副栄養部長は「病気は突然起こるものではない。毎日の食事が健康をつくる」と訴えた。（辻野麻衣）

徳島新聞令和８年１１月２日掲載
コピー、転載禁止